



三笠を科学する

三笠 保存100年 ふね遺産認定 記念写真展

横須賀の現在・過去・未来を考える会(GKM)

代表幹事 毛利邦彦(毛利塾塾長)

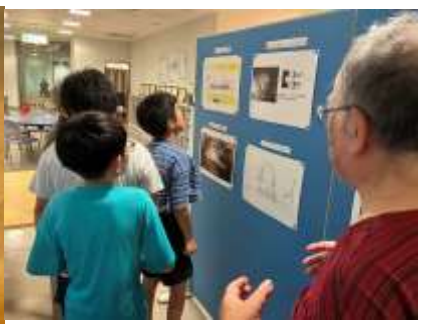
保存100年とふね遺産認定を記念して、2026年8月25日から30日まで、横須賀市市民活動サポートセンターにて「記念写真展」を開催した。記帳数は延べ126名、見学者は3倍の300名を超えた。この写真展で小学6年生が目を見張って説明を聞いていたので、三笠の図面を渡したら大喜びした。また近くに「MIKASA」と言う、カフェの主人が日曜日の一番に来た。父親が三笠を誇りに思い名付けた店だが自分は三笠の事を知らないで、三笠とはどんなものかを確認に来たという。写真を見ながら納得して帰った。三笠に因んだ名前は三笠商店街だけと思ったが、新鮮な感じを持った。そのほか三笠の乗組員でお孫さんが大例祭用の帽子を持参し、寄贈の相談を受けた。保存状態も良く、関係者と相談した上で、寄贈を検討してもらうことにした。また川口市の三笠の予備プロペラがあるとのこと。インターネットにSTONE BRONZE 1889 LONDONと刻印されている。STONE BRONZE社の名前は発見できなかった。J.STONE社は実在して銅製のスクリューを製造しており、経緯は不明だが三笠用の予備品を否定するものではない。その他、三笠のキャバレーには「クラブ東郷があった」、水族館に行ったなど、いろいろな方々が三笠を懐かしく語った。またこのふね遺産を認定した「日本船舶海洋工学会」の前身は「造船学会」である。造船工学の発祥はベルニーが横須賀製鉄所建設時に「養舎(こうしゃ)」を作り、優れた日本人造船技術者を排出し東京大学の造船学科の礎になった。その由緒とゆかりのある学会からふね遺産として認定されたことは三笠の永久保存に大きなエネルギーを貰った。横須賀のシンボルである「三笠」の来場者数はV字回復はしているがコロナ前の25万人(年間)には届いていない。横須賀市民がまずは新しい三笠を見学、他県の友人仲間を招き、三笠の士官室で海軍カレー(20名以上)を食するおもてなしをして貰いたい。まだまだ三笠には多くの謎がある。三笠と連携しながらその謎解きをGKMは会の活動として継続していきたい。



ふね遺産認定書(三笠保存会)



三笠乗組員の肩章と帽子



熱心に記念写真を見学する次世代

「横須賀製鉄所建設現場からレポート」⑧

叙勲された人たち

日本政府が外国人叙勲の法制を正式に定めたのは、明治21年11月です。それ以前は状況を勘案して決定されました。また、勲記・賞牌(翌年勲章と改称)の制定は、明治8年4月のことです。横須賀製鉄所関係者では、首長ヴェルニーと医師サヴァチェが明治9年1月に叙勲されましたが、勲章製作が間に合わず勲記が先に渡されました。12月30日明治天皇に謁見を賜ったとあります。但し、翌日ヴェルニーは解任されます。これは、半年前より機構改革が図られ、ヴェルニーを外す動きがあったためです。また、サヴァチェは直ちに帰国しました。

ヴェルニー・サヴァチェ以外では、ティボディエとフロラン兄弟が叙勲されました。特にヴァンサン・フロランは、走水村水道の設計・ドック・機械工場建築の実績が評価されました。(安池尋幸)

賛助会員

○株式会社 グリーンユーティリティー 代表 森 幸一様 5万円

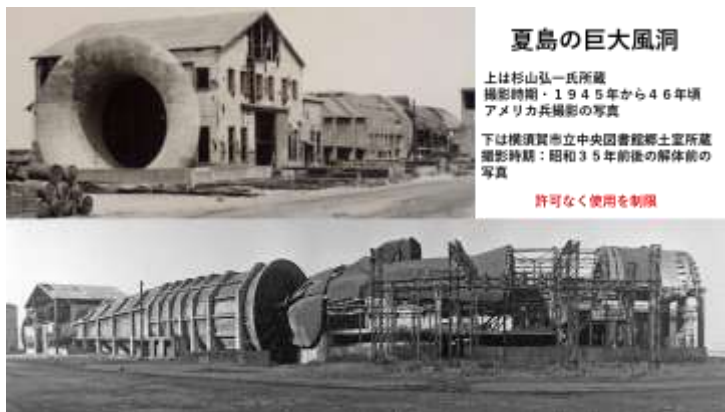
○一般社団法人 地球温暖化防止LSE技術アカデミア 代表理事 加藤征三様 森幸一様 3万円

○株式会社 東洋テクニカ 代表 森 幸一様 3万円

企業紹介は次号に掲載いたします。

風洞おじさんの独り言⑧

呉には大和ミュージアムがある。呉の街は海軍工廠があった場所として市民が誇りに思っている。横須賀にUターンしてみて、改めて生まれ育った街を俯瞰すると、何故か軍関係の史実には無関心かまたは禁句のような感触があった。子供のころは空母母港化反対、原子力潜水艦寄港の反対のデモ行進が聞こえる所だったので、理解できなかった。MP(マリーン ポリス)は堂々と拳銃を携帯して市内を巡回していた時代であった。隣の家は外人専用のバーで、窓から兵隊の喧嘩がよく見えていた、現在も米海軍基地がある。ここが呉との違いである。特に呉海軍工廠は戦艦大和を建造した。大和は当時最新鋭の浮沈戦艦と呼ばれたが、時代は航空機の時代に突入していた。徳之島の沖合で撃沈されたが、その美しい姿と悲劇には日本国民の心を揺さぶる何かが大和にはある。横須賀に戻り、三笠との関わり合いを持った時に、三笠を勉強した。その延長線に横須賀製鉄所の存在を知った。スチームハンマーの製造国がオランダ製とあったのに違和感を持った。事実を知りたいとインターネットで海外の博物館サイトを調査した結果、ROTTERDAMが総合商社である動かぬ証拠(75周年記念誌)を見つけた。英国製であるとの自信が確信に変わった。菊池学芸員と共著で研究報告書を書きあげたが、積極的にその成果をアピールすることを敢えてしなかった。そして、次の課題が舞い込んだ。米国公文書館(NARA)が公開した大戦直後のカラー映像に映る夏島の巨大風洞である。これはなんだ？文献を探したが該当するものはない。情報提供を呼び掛けると、東大教授は空技廠の中型風洞に決まっているので、何が情報提供だとか、他に東北大から直接聞いたが、勉強不足ではないかとのネガティブな声が寄せられた。これがポジティブになったのは栃木の杉山さんからの写真提供と種子島時休氏の論文を見つけた時である。偶然と偶然の連鎖でたちまち調査研究の方向性が見えた。決定的な証拠は横須賀市立図書館の日産への払い下げ時に撮られた夏島の写真集である。防衛研究所の接收時の配置図と合致した写真が見つかった。これが夏島の巨大風洞にたどり着くまでの経緯である。この報告は横須賀市内で少人数の聴衆に成果を発表した。反応は大きくて、謎の巨大風洞の謎解きが終わった。現在取りまとめを行っているが、「聞いているが根拠がない」と言う人がいるので、時間をかけて論文として書き上げたい。もう少し時間が必要だが、楽しみにして頂きたい。日本の航空技術史を大きく変える潜在的な情報が含まれているので慎重になる。(毛利、永久)



夏島の巨大風洞

上は杉山弘一氏所蔵
撮影時期・1945年から46年頃
アメリカ兵撮影の写真
下は横須賀市立中央図書館郷土室所蔵
撮影時期：昭和35年前後の解体前の
写真

許可なく使用を制限

フランス人医師サヴァチエの生涯⑧

(江沢暁彦)

サヴァチエが残したフランス医療について、研究論文は少ない。日本の医学はドイツと英国との戦いで「ドイツ医学」に軍配があがった。多くの医師はドイツ語を学んでカルテはラテン語で患者には分からない配慮がされた。大正時代のカルテは大福帳のような紙に筆で診察内容が書かれている。(毛利家文書)横須賀にはフランス人医師サヴァチエがいるのになぜフランス医療が語り継がれていないのか疑問に思っている。富岡製糸場と生野鉱山はフランス人医師が派遣されている。彼らはサヴァチエの後に日本に来ており、横須賀製鉄所のサヴァチエとの関係を持っている。横須賀でのサヴァチエの功績についての研究がされていないこと、富岡製糸場のマイエ、生野鉱山のエノンなどフランスの医師が着任した。このフランス人医師についての地元への貢献や生涯にわたる活躍についての論文は見当たらない。サヴァチエと同じように日本人医師を育て、地元民への治療を行って感謝されていたと思われるが、中心人物のサヴァチエの評価も確立していない。植物学者としての側面は大きく評価されて、本業の医師としての評価は地元の横須賀で声をあげなければならない。近々、フランス人医師サヴァチエを話題として神奈川歯科大で講義した時の講義録をベースに出版を予定しているので楽しみにして貰いたい。

賛助会員の紹介

一般社団法人 SASP 2026年8月30日 1万円

代表 小宮 里美氏

○小栗上野介を現代の売れないミュージカル俳優がタイムトラベルをして、その生き様を現在に引き継ぐ創作物語。「鉄の意志を引き継ぐ者」がテーマのミュージカル。

○上演

2026年10月10日土曜日 13:00と18:15から

2026年10月11日日曜日 13:00と18:15から

○場所

横須賀市本町 ヨコスカ・ベイサイド・ポケット

京浜急行 汐入駅 徒歩1分

○料金(GKM会員は10%引き)

A席 6000円、B席 3000円(座席指定)

18歳以下は無料:同伴者は半額

会員募集中 年会費 1000円:寄付・賛助会員募集中